

土砂災害防止月間 6/1 ~ 6/30

あなたと家族と地域の安全のために

自然災害に立ち向かうことはたいへん難しいことですが、災害に対して日ごろから備えておくことは大切です。
梅雨時期の大雨や都市型の集中豪雨。また、近年確実的な予想等で報じられております東南海・南海地震に対して、被害を最小限にとどめるために、家庭から地域へと防災の輪を広げ、安全についてのマニュアルを再確認しておきましょう。



治山工事



治山工事

List of evacuation sites 避難所一覧表 ภัยอันตราย

名称	所在地	電話番号
奥池集会所	奥池南町34-4	32-0763
山手中学校	三 条 町39-10	32-1122
西山幼稚園	西 山 町22-15	32-5457
前田集会所	前 田 町8-17	23-3899
※山手小学校	山 手 町8-3	32-1113
市立芦屋高等学校(体育館のみ)	銅 谷 9	32-1131
大原集会所	大 原 町20-2	38-7782
市民センター	美 平 町8-24	31-4995
上宮川文化センター	上 宮 川 町10-5	22-9229
朝日ヶ丘小学校	朝日ヶ丘町10-10	32-1115
朝日ヶ丘集会所	朝日ヶ丘町30-9	23-4896
※岩園小学校	岩 園 町23-41	32-1114
岩園保育所	岩 園 町2-18	31-0335
芦屋大学附属中・高等学校	六 麓 庄 町16-18	31-0666
翠ヶ丘集会所	翠 ヶ 丘 町9-15	22-2475
※精道小学校	精 道 町8-25	32-1111
市立体育館	川 西 町15-3	31-8228
茶屋集会所	茶 屋 之 町8-20	32-1232
竹園集会所	竹 園 町5-6	22-2484
伊勢幼稚園	伊 勢 町13-14	31-8313
宮川小学校	浜 川 町1-9	32-1112
栗立芦屋高等学校	宮 川 町6-3	32-2325
小椋幼稚園	打出小椋町15-7	22-4885
海技大学校	西 蔵 町12-24	38-6202
打出浜小学校	新 浜 町8-2	23-4581
※精道中学校	南 宮 町9-7	32-1121
春日集会所	春 日 町13-17	32-5377
※浜風小学校	浜 風 町1-1	23-4591
浜風幼稚園	浜 風 町1-2	31-1505
浜風集会所	浜 風 町3-2	38-0960
新浜保育所	新 浜 町1-1	32-0410
瀬見小学校	瀬 見 町1-2	34-0721
瀬見中学校	瀬 見 町20-1	34-1601
瀬見集会所	瀬 見 町7-1	32-4359
合計	34か所	※印は教護所設置避難所を示す。

To prevent landslides 土砂災害を防ぐために 토사재해를 방지하기 위하여

梅雨や台風の時期には十分な警戒を
 ● かけ崩れのほとんどは、梅雨や台風の時期に発生しています。
 ● これは長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるためです。
 ● 地域によって異なりますが、1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の雨が続いたら、かけ崩れの危険が高いとされています。

こんな前ぶれに要注意

- かけからの水がにごる
- かけに亀裂が入る
- 小石が落ちてくる
- かけから音がする

危険な前兆

災害情報をお伝えする地域情報メディア

- ひょうご防災ネット <http://bosai.net.ashiya/> (災害情報)
- 広報あしや (パソコン) <http://www.city.ashiya.hyogo.jp/>
- 広報あしや (携帯版) <http://www.city.ashiya.hyogo.jp/m/>
- 兵庫県防災気象情報 (パソコン) <http://hyogo.bousai.info>
- 兵庫県防災気象情報 (携帯版) <http://hyogo.bousai.info/mobile>

危険なかけ

危険なよう壁

高さ5m以上ある

斜面に亀裂がある

不安定な岩や土のかたまりがある

雨水が集中して流れるところがある

湧き水が出ている

傾斜が30度以上ある

かけの上に水がたまり、流れ込んでいる

盛土の部分につくられている

よう壁が崩れ足してつられている

水抜き穴が少ないか、詰まっている

亀裂やふくらみなどの変形がある

雨水がたまり、ぬがんでいる

よう壁の裏側に補強用の石(裏込め石)がない

基礎の部分十分に土中に入っていない

To provide against disasters 災害に備えて 재해에 대비하여

家庭防災会議を開こう
 災害はいつどこで起こるか予測しがたいものです。いざという時のために、日ごろから家庭でもよく話し合って確認し合ひましょう。

● 避難所をチェック!
 ● わが家の安全をチェック!
 ● 非常持ち出し品をチェック!

■災害にあう場所は違っててもいざという時の連絡方法や、避難所の場所や避難方法などを確認しあっておけば、災害にあう場所は違ってても家族に会えます。

■まずは身の安全確保に向けてなによりも大切なのは命。まず、自分の身の安全を確保し、続いて地域のみなどで協力して高齢者や心身障害者の救出・救護にあたります。

■家族防災会議から地域の自主防災活動へ地域に住むみんなが協力してこそ災害に強い地域ができます。

協力しながら助け合って避難しましょう。

定期的な話し合いの積み重ねで家族の防災意識を高め、いざという時に備えます。

自宅
 避難所
 学校で
 職場で
 屋外で

Storing the emergency goods 生活用備蓄品を用意する 생활용비축품을 준비한다

非常食	飲料水	応急医療品	衛生用品	貴重品	衣類	生活用品	ヘルメット・または防災ずきん	携帯ラジオ・懐中電灯・乾電池	その他
インスタントラーメン、クラッカーなどすぐに食べられるもの。最近では水を注ぐだけで食べられるアレルギー対応のアルファナなども市販されている。	ペットボトルのミネラルウォーター。	消毒薬・目薬・体温計・ばんそうこう・ガーゼ・包帯・マスク・とげ抜きなど。持病のある人は常備薬も用意しておく。	石けん・スレティッシュ・生理用品・子どものオムツ・ドライシャンプーなど。	現金・預金通帳等・健康保険証・免許証・印鑑・権利証書など。	上着・下着・靴下・ハンカチ・タオルなど。季節により防寒具。	軍手・雨具・ライター(マッチ)・ナイフ・缶切り・ビニール袋など。			紙コップ・紙皿・ラップフィルム・ろうそく・ひも・フェルトペン・新聞紙など。

■これらを10kg ~ 15kg程度にまとめてリュックサックに入れておきましょう。
 食品や医薬品など賞味期限や有効期限のあるもの、電池や燃料など使用期限のあるものは、時々チェックして入れ替えるようにしましょう。

For your safety 安全対策 안전대책

土砂災害や水災害などの自然災害から身を守るには「日ごろの備え」が大切です。いざという時に冷静に対処ができるよう、普段から防災意識を高め、十分な対策を立ておきましょう。

避難する時は・・・
 避難をする時は、行動しやすいようにリュックサック等で荷負しましょう。また、車の避難は思わぬ危険に遭遇する場合があります。必ず安全な避難場所を選んで避難しましょう。

山・かけ崩れに注意!
 大雨の時は、地盤がゆるみ、急傾斜地の崩壊や地すべり、かけ崩れなど、思わぬ二次災害が発生する場合があります。十分に注意し、異常を感じたら、早めに避難しましょう。

正しい情報を聞く
 正確な情報を集めることで適切な対応ができれば、被害は最小限にとどめることができます。テレビ・ラジオなどの気象情報や市の防災関係の広報に注意しましょう。

避難勧告や避難指示について
 勧告・指示が想定されるもの
 ★火災による危険、危険物及び高圧ガス等の漏洩があったとき。
 ★かけ崩れ等の発生可能性があるとき。
 ★津波警報が発令されたとき。
 ★その他、災害の状況により、市長が認めるとき。

勧告・指示の方法
 ◆市民の方々に、広報車、ひょうご防災ネット及び自主防災組織の協力を得て組織的な伝達を行います。
 ◆テレビ・ラジオ放送により周知を図るため、放送局へ協力を依頼します。
 ◆市民の方々の協力により、近隣に居住する独居老人や日本語を十分に解さない外国人等の情報要援護者に対しても確実に伝達されるようにします。

防災倉庫の活用
 裏面地図上に記載している防災倉庫(▲印)には、災害時に市民の方々が利用できる初期消火用の小型ポンプや、救助用のバールや担架、炊飯装置や救護用のテントなどの資機材を備えています。全ての人が使え方を覚える必要はありませんが、地域の人たちで相互に活用できるようにすることも大事です。又、災害時のみ活用するのではなく、地域の行事や催し等で使用し、慣れ親しむようにしましょう。

Watch out for the heavy rains 大雨に注意! 큰비에 주의

梅雨や台風シーズンは、必ずといっていいほど大雨が降り、人命や家屋・交通機関等に多くの被害をもたらします。
 本市では、5年に1回程度(46.6mm/時間)による浸水をなくし、また、計画降雨以上の降雨があった場合にも、浸水被害をより小さくするために下水道事業を進めているところです。
 しかしながら、近年の都市化により、降った雨が地面にしみ込まずに下水道に流れ込む量が増えており、これに対応した整備を行うため、下水道工事に長い期間が必要となります。市民のみなさんのご理解を頂きますようお願いいたします。

過去の大雨降雨量 (mm/分間)

順位	60分間	降雨年
1	100.5	平成元年9月豪雨
2	87.7	昭和13年阪神大水害
3	76.0	平成9年7月豪雨
4	75.8	昭和42年7月豪雨
5	56.5	昭和53年9月豪雨

大正13年から平成15年までの降雨
 神戸海洋気象台・芦屋市雨量計データによる。
 ■平成9年7月13日豪雨では、床下浸水以上の浸水区域はありませんでした。

How drains work 下水道の役割 하수도의 역할

分流式公共下水道

下水道管には、汚水を流す汚水管と雨水を流す雨水管、汚水と雨水を同じ管で流す合流管があります。

汚水管の大きさは、水道の使用量により決められています。汚水管に雨水を流せば、雨天時に汚水マンホールが溢れてしまいます。また雨水管に洗濯水、建築工用のペイント・モルタル及び汚水を流すと、放流先の河川の環境を破壊します。管の役割を守り正しい使用をお願いします。

●雨水浸透施設の普及は安全なまちづくりに役立ちます。●

近年、都市化により緑地の面積が減少しています。その結果、降った雨が一度に勢いよく市街地に流れてくるようになってきました。雨水浸透施設は、雨水の流出量を減少させ、安全なまちづくりに貢献します。また、地下への雨水浸透により大地を潤して、緑あふれる環境づくりに役立ちます。宅内雨水樹の浸透化、駐車場・ガレージの浸透式舗装など、ご協力をお願いします。